

## 11. 新生児のうち、出生時体重が1,500g未満の数

### 項目の解説

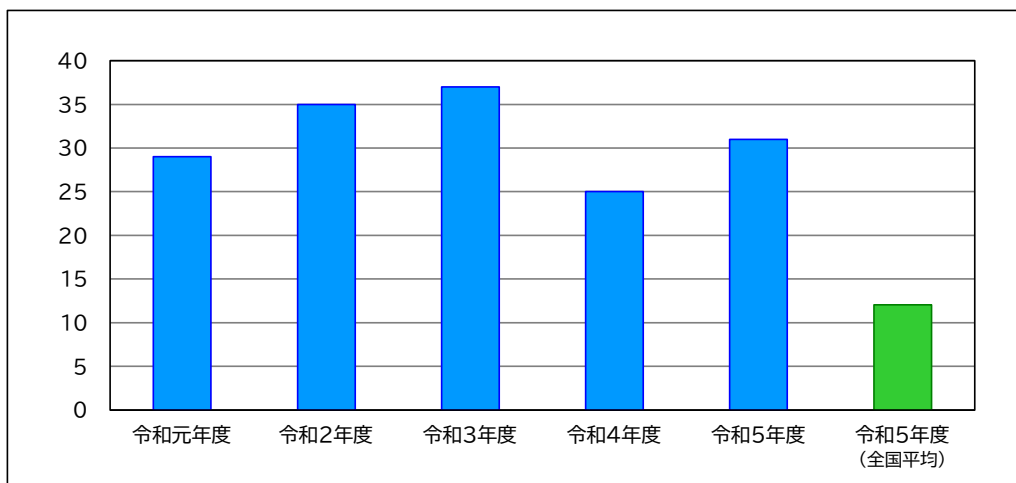
出生体重が1,500g未満の児を極低出生体重児、1,000g未満の児を超低出生体重児といいます。このような新生児の治療には、高度な設備を持つ新生児特定集中治療室(NICU)において、経験のある医師・看護師が24時間体制で呼吸・循環などの全身管理を行う必要があります。極低出生体重児および超低出生体重児の数は、高度な周産期医療を提供していることを示します。

当院は福岡医療圏における総合周産期母子医療センターであり、NICUが充実していることもあり、重篤な胎児発育不全あるいは双胎妊娠の紹介例が多いことから極低出生体重児および超低出生体重児の出生数が多くなっています。また、小児外科疾患、小児心臓疾患、小児脳神経疾患に対応できることから、福岡医療圏外からの紹介例が多いことも一因として挙げられます。

### 当院の実績

九州大学病院					全国平均
令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
29	35	37	25	31	12

(単位：人)



\*「全国平均」は、国立大学病院の平均値(四捨五入)を示します。

### 定義

自院における出生時体重が1,500g未満新生児の出生数です。  
死産は除きます。



九州大学病院

KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL